

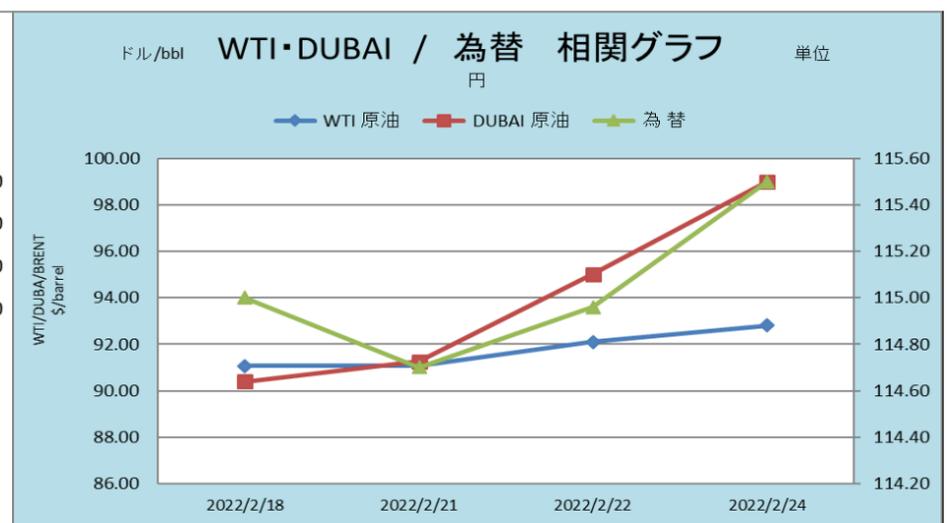
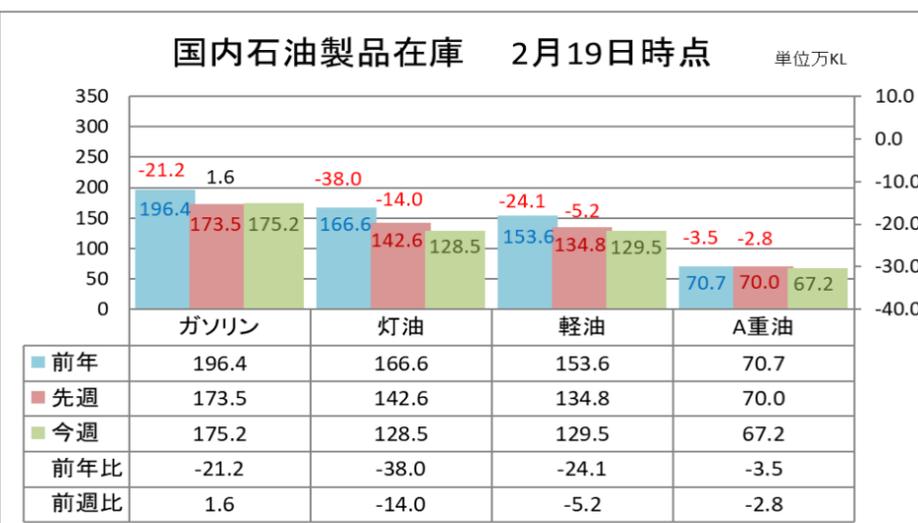
イデックスオイルレポート ~For a week~

2022/2/25作成 (株)新出光

【概況】<ロシアによるウクライナ侵攻により大幅変動>

- 18日、イラン核合意再建をめぐる交渉が大詰めを迎える中で、イラン制裁が解除されれば同国産の石油が市場に回帰するとの見方から、供給増を警戒した売りが前日から継続しました。これまで急速に買われてきた反動で、2月21日の大統領の日の休日を含め3連休を前にした利益確定の売りも出ています。
- 21日、休日(大統領の日)
- 22日、ロシアのプーチン大統領は21日の大統領令で、国防省に対し、ウクライナ東部の親ロシア派支配地域でのロシア軍による平和維持活動を指示したことを受けて原油は未明の時間帯にWTI原油で一時96.00ドルに急伸しました。急速に上げた反動から、じりじりと上げ幅を削り、92ドル台前半で収まりました。
- 23日、ウクライナ国家安全保障・国防会議は、非常事態宣言を発令する方針を決めました。ロシアが21日に東部の親ロシア派支配地域の独立を承認し、他の地域へも侵攻の脅威が高まっていることを受けた措置のようです。日本や欧米が対ロ経済制裁を打ち出し、情勢が緊迫する中、原油は供給懸念からの買いの流れが続いています。
- 24日、ロシアは世界第3位の産油国で、石油輸出では世界2位であるため、ウクライナや黒海を経由して運ばれるロシア産原油(最大日量100万バレル)の供給が混乱し、市場の逼迫状況に拍車がかかるとの懸念が膨らみ、相場は早朝に一時WTI原油で100.54ドルまで上昇しました。

2月25日 17:00現在 WTI原油 95.12ドル 為替 1ドル 115.30円



	次回元売変動予測		【製品卸価格】<最後の消化売り強まる>
	3/3~	前週比実質変動予測	
ガソリン	➡	+2.0~+2.5	《今週》 今週の元売り仕切り改定は3社ともに原油コスト「+1.0円」、補助金「-5.0円」となり、実質「+1.0円」の値上げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの21日時点の小売価格の平均が172.0円となり、燃料油価格激変緩和措置が継続されています。原油コストは先高なもの、市況としてはガソリンや軽油は売りが強く、むしろ徐々に下がってきている様子が伺えます。 《2月26日以降》 次回の元売り改定は、現状で原油調整金の「-0.8円」を含めた原油コスト「+2.0~+2.5円」に補助金は上限の「-5.0円」が入り、実質では原油コスト分の「+2.0~+2.5円」値上げになると思われます。原油動向が落ち着かない状況ではありますが、月内のコストがほぼ確定した玉の枠消化での売りが強く、価格以上に枠消化を優先して下げ合いになっています。灯油は多少需要が残っているほか、ガソリンも月替わりのリセット値上げ前ということもあり、週末分では多少オーダーが付いてきている様子があります。
灯油	➡	+2.0~+2.5	
軽油	➡	+2.0~+2.5	
A重油	➡	+2.0~+2.5	
LSA	➡	+2.0~+2.5	

※原油コスト「+2.0~+2.5円」
 激変緩和補助金「-5.0円」
 ※現時点での予測です。

【次世代エネルギー】<廃タイヤをケミカルリサイクルへ>

ブリジストンとENEOSは、廃タイヤを分解してタイヤの原料として再利用するケミカルリサイクルの実用化に向けた取り組みを始めたと発表しました。2030年までに量産を想定した実証実験を行います。現在廃タイヤの多くが燃料として使用されておりますが、この取り組みでは廃タイヤを精密分解し、できた分解油を精製してナフサなどの石油化学原料とし、この石化原料から、合成ゴムの原料となるブタジエンなどの化学品を製造して資源を循環させます。化学燃料由来の原料を用いる石油・石油化学産業にとって低炭素・循環型社会の実現のためには再生可能資源の更なる利用促進が求められていることから、ENEOSグループでは製油所を活用した油化リサイクルを推進しています。

[出典]

- ① <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC186CF0Y2A210C2000000/>
- ② <https://car.watch.impress.co.jp/docs/news/1389792.html>